

令和5年度〔自己評価報告書〕

| | | |
|------|-----------|--------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 92 | 川崎市立南菅小学校 | 宮原 千恵子 |

| 学校教育目標 | 今年度の重点目標(めざす子ども像) |
|---|--|
| 心身ともにすこやかで、思いやりがあり、調和のとれた児童の育成 ～心が通い合う 子どもたちをめざして～ | <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学びよく考える子(確かな学力) ○自他を大切にし、認め合い協力する子(豊かな心) ○心身ともに健康でたくましい子(健やかな体) ○未来を創造し豊かに生きる子(生きる力) |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 | |
|--------------------|---------------------------------|---|--|--|
| 主体的に学びよく考える子・確かな学力 | 1 主体的・対話的で深い学びを目指した学習の充実 | 校内研究による授業の充実 「主体的に学び、関りを通して考えを深めようとする子どもの育成」 ～見通しをもち、粘り強く学習する力を育む授業づくり～(生活科・社会科) ・「学びの広場」の活用 ・GIGAスクール構想の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「これからも頑張っていこう」という思いをもつ児童が増加してきた。優秀作品の紹介や「学びの広場」の活用も効果的だった。その一方で、課題解決型の学習に対話的に取り組んでいく必要がある。(児童の話す・聞く学習ができていないアンケートの数値が低めである) ・GIGA端末は有効活用に向かっている。調べる・まとめる・表現するツールとなり、授業以外での活用も広がっている。 ・発達段階にもよるが、家庭での活用には個人差や学年差が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの広場」の活用を継続する。 ・校内研究等で授業を見合う機会を設け、課題解決型の学習に向けて意識を高める。 ・学びを深めるために教師も児童も目的やねらいを確認しながら、対話を大切にしたい授業展開を続けていく。 ・児童は、端末の活用力が身につけてきている。より有効な活用について探っていく。 |
| | 2 基礎・基本の定着と応用力・自己調整力を培う指導の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や家庭学習への継続的な取り組み ・学びの定着を確かめる振り返り及び学校独自の「たしかめテスト」の実施 ・学習ルールの徹底した指導(南菅小学校のきまり) ・外国につながる児童の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者アンケートより学習に取り組む姿勢についての意識が高評価であった。保護者の協力も得ながら、教職員が学習ルールについて共通理解を図り、指導を継続することにより、児童の学習態度が身につけている。その一方で、自主的に学習に取り組んで割合が低かった。「たしかめテスト」への取り組みの成果があまり見られなかった。 ・外国につながる児童の支援は教職員で共有するとともに初期支援や国際教室での個別支援に取り組む、日本語の定着を図ることにつながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習学習を意識した学習の場を充実させ、活用できる力や応用力を身につけさせたい。また、端末を活用した多様な学習方法を探り、児童の意欲、能力の向上に向けて取り組んでいきたい。 ・学習の場面でも自己を振り返り、「できた」「わかった」という満足感や生まれた課題を明確にし、学びをつなげていく。 ・たしかめテストの実施や取り組みを見直していく。 |
| | 3 多様で豊かな体験活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた体験的な学習 ・科学実験教室・歌唱指導・馬頭琴鑑賞 ・栽培活動・コーディネーション運動 ・昔遊び・梨の世話・里山体験・田植え稲刈り ・ガサガサ体験・認知症サポーター体験 ・ポッチャ体験・車いす体験・いのちの学習 ・二ヶ領用水、子どもの権利等に関わる授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートより多様で豊かな体験活動の充実を図ってきたことが、学習意欲の向上や地域への愛着を高めることにつながっていることがわかった。しかし、児童と保護者の感じ方が若干異なっていることもわかった。 ・体験のみで終わらないよう、学習をマネジメントする教員の力が必要であること、また、打ち合わせや準備等に時間がかかることやそのための時間の確保が課題となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡る外部講師による授業は本校の特色ある教育活動の一環である。これからも体験的な活動を重視し、児童にとって魅力ある授業になるように更なる連携を図りながら意図的、計画的に推進していく。 ・年度初めの確認と引継ぎ、つけたい力を明確にした単元構想を実現していく。 ・人材の確保と時間の使い方を工夫する。 |
| 豊かな心 | 4 認め合い、支え合う気持ちの育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・共生*共育プログラム等の授業実践や研修 ・効果測定アンケートによる学級づくりの検証と改善 ・「ふわふわ言葉・チクチク言葉」の日常的な実践 ・児童会主催による自主的活動の充実(いいとこみつけ・南菅ノーベル賞他) | <ul style="list-style-type: none"> ・効果測定を実施し、学級の人間関係を把握し、検証を共有することにより指導の改善に努めることができた。 ・「ふわふわ言葉」の推進・定着、「チクチク言葉」の防止を図るために指導を行うとともに、運営委員会が中心となってキャンペーン活動を展開した。 ・児童アンケートより「自分も友達も気持ちよく過ごせるよう心がけている」との回答が97%と高かった。具体的な取り組みの成果といえる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・共生*共育プログラムとSOSの出し方・受け止め方教育の推進を継続していく。 ・効果測定を引き続き実施して、全教職員で児童のより良い関係を構築していく。 ・運営委員会中心のキャンペーンの工夫 ・思いやる心を大切にする指導の継続と具体的な行動の価値づけを行う。 |

| | | | | | |
|----------------------|---|--|--|---|--|
| 自他を大切にし、認め合い協力する子 | 5 | 規範意識の高揚と道徳教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまり、社会のルール、言葉遣いなどの指導 ・「南菅小のきまり」の家庭配布と教室掲示 ・生活目標の自主的な実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標について代表児童が朝会で話したり、運営委員が生活目標の振り返りを各学級で話し合える工夫をしたりして、児童による自発的な取り組みを継続している。 ・ルールを守れていると回答した児童は9割割を超えている。道徳の学習ではもちろんであるが、保護者アンケートより家庭でも「道徳的なことや規範意識について話し合っている」という結果が高かった。 ・児童の実際の行動に結びつけていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な行動を促すための運営委員会を中心とした様々な取り組みの実践と振り返り。 ・学校のきまりの更新と全教職員・家庭との連携。その意味や価値について理解して取り組むような継続指導。 ・ヒヤリハットを共有し、具体的な指導を行い自分たちで生活を見直していこうとする意識をもたせ、実践力を育てていく。 |
| | 6 | きめ細やかな児童理解・指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・「生活ふり返りカード」による児童一人一人の見とり(毎日) ・「学校生活アンケート」によるいじめの早期発見と対応 ・職員会議での児童理解 ・問題行動やトラブルの早期対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活ふり返りカード」では、児童自身が生活を振り返ると共に、困っている児童の早期発見にもつながった。 ・「学校生活アンケート」を年2回実施した。教職員の児童理解やトラブルの早期発見にも役立っていた。 ・小規模校の良さを生かし、様々なトラブルに対して早期に対応できた。当該学年・学級の担任とCOで情報を共有し、児童指導にあたることができた。 ・児童アンケートでは学校で相談する人が担任以外にいることを知っているとの回答が8割程度であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートより「担任の先生以外にも相談できる人が学校の中にいることを知っていますか」のポイントが高くなかった。相談することの意義と相談体制を児童に知らせ、COやスクールカウンセラーとともに児童の困り感を受け止めていく。 ・教職員の報告・連絡・相談の徹底を行い、COを中心とした児童支援体制を構築していく。 |
| 心身ともに健康でたくましい子・健やかな体 | 7 | 体育授業の充実と運動の日常化による体力向上 達成感を味わえる運動会 | <ul style="list-style-type: none"> ・専科担当による体育学習 ・体力テストの実施とデータ分析 ・専門家による特別授業の実施(コオーディネーション運動) ・自分たちでつくりあげる運動会(児童とともに企画・検討・実施) | <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果を意識した学習の組み立て、ポイントを押さえた指導や目標を明確にした学習カード等の工夫により、体育学習の充実を図った。 ・児童アンケートより体育の時間に運動を楽しんだ、運動が好きになったとの回答結果が高くなった。 ・コオーディネーション運動の専門家による指導を取り入れ、体育学習の充実を図った。 ・運動会では、児童の主体性を大切に発達段階を考慮し話し合っ種目を決めている。児童アンケート結果から積極的に参加することができたとの回答が9割だった。1割程度は、達成感をあまり実感できていない。コロナ禍での制限ややるべきことが多岐にわたった面があったと考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育専科を中心として運動の楽しさを実感できる学習、新体力テストの結果を意識した学習指導を目指していく。同時に、目標をもって体力づくりに取り組む指導も行っていく。 ・学校での取り組みを保護者に伝え、家庭でも運動に親しむ機会を意識していただく。 ・運動会については、今年度の取り組みを継続するとともに、十分な話し合いや準備の時間が取れるように秋開催とする。また、勝敗への強いこだわりを緩和できるよう、得点や勝敗についても再考していく。 |
| | 8 | 運動に親しむ態度の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施とデータ分析 ・休み時間を利用した運動委員会による「GOGOチャレンジスポーツタイム」 | <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果を踏まえ、課題を明確に運動委員会が企画・運営した集会(GOGOチャレンジタイム)の開催により、児童が自ら進んで体力づくりを行った。 ・保護者の認知度も高くなってきているが、より一層の協力が得られるようにしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果から具体的な活動につなげることができた。継続していく。 ・GOGOチャレンジタイムなどの運動委員会の活動や学校での取り組みを保護者にも伝え、家庭でも運動に親しむ機会を意識し協力していただく。 |
| | 9 | 健康・食に関する意識の向上と安全指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や学校栄養職員の授業参加 ・委員会(児童)からの発信 ・南菅小のきまりの徹底 ・多様な状況を想定した避難訓練と安全教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止や安全確保のために体育の学習や休み時間の指導について、若手教員の支援と全体での共通理解を行った。 ・健康委員会の活動として、休み時間後の手洗いの呼びかけや給食時の献立紹介など、毎日行うことを通して各自の健康に対する意識を高めた。 ・児童、保護者アンケートより睡眠・食事・歯磨き等の取り組みには高い結果が得られたが、手洗い・うがいは以前の数値に戻っていた。 ・様々な状況下での安全確保や避難の実際を経験する避難訓練を実施した。児童の避難に対する意識が高まり、安全に非難する姿勢が身につけてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や健康委員会の活動の成果を評価し、取り組みを継続していく。 ・保健だよりや給食だよりで保護者へ知らせ、協力を得ながら進めていく。 ・養護教諭や学校栄養職員の授業参加や健康委員会による実践により意識の向上を図る。(手洗い・うがいの推奨も含めて) ・様々な状況を想定した避難訓練と問題発生時の対応についての訓練の実施と職員研修を継続する。 |

| | | | | | |
|--------------------|----|---------------|--|---|--|
| 未来を創造し豊かに生きる子・生きる力 | 10 | 自己有用感・肯定感の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ・「自分を見つめる力」の育成(振り返りの充実)→振り返りの内容 ・「よいこと」を進んで行い認め合う心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面での振り返りから、自己を見つめる機会を設けた。同時に教師が認め価値づける指導も心掛けた。児童アンケートの結果から、自己の役割に責任をもって取り組んだとの回答が高かった。自分の良いところが言えない・あまり言えないと答えた児童も一定数いた。 ・保護者アンケートから、家庭では、自己肯定感を高める関りを意識して行っていることが分かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・成長した自分を実感できるよう指導の工夫・改善をしていく。振り返りには、困ったことも頑張ったことも書けるように指導を行う。 ・思いやりの心を言葉や態度、行動で示すことの大切さを道徳、各教科、学校生活などで指導し、児童同士の認め合いを価値づけ、自己有用感につなげていく。 ・キャリアノートを有効的に活用していく。 |
| | 11 | 未来を創造する力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力の礎を築くキャリア在り方生き方教育の実践 ・系統性をもたせた地域の人材・素材を生かした学習活動の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活科・社会科の学習を中心に授業改善を図った。人・もの・ことと関わることに重点を置き、研究テーマ「主体的に学び、関りを通して考えを深めようとする子ども」の姿が見られた。地域の方の協力による体験活動を通して、地域や地域の人の良さへの気付きも高まっている。 ・保護者アンケートでの地域との関りは児童のアンケートより低めである。 ・児童アンケートでは、頑張っているところがある、将来の夢や目標があるという回答が、学年が高くなるにつれ低くなる傾向がみられる。保護者アンケートからも全体的に、子どもと将来について話題にする機会が少ないことが分かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人材や決められた時間の中で成果が得られるよう指導を進めてきた。来年度も、教科目標の達成とキャリア教育の視点を踏まえてカリキュラムマネジメントに努めたい。 ・年間指導計画の調整を図り、児童や地域の実態に応じた価値ある内容のものにしていきたい。 ・学校での活動の成果を保護者とも共有していきたい。 ・市制100周年と創立40周年の取り組みも視野に入れ、児童と地域の願いを調整、融合させ、視野を広げていきたい。 |
| 教職員 | 12 | 働き方改革と教職員をつなぐ | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な勤務時間管理 ・教職員の意識改革 ・端末の有効活用 ・研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理職が時間を意識する声かけを率先して行うと共に時間外に勤務をする必要がある場合には適切な勤務時間変更を行った。 ・GIGA端末の有効活用により、伝達事項や提案文書のWeb化を図った。 ・服務規律、教師力と同僚性の向上等を目指し、様々な講師(本校職員も)による様々な研修を実施した。各自の力の向上につながった。 ・求められる教職員像に向け各自が努力している。教職員アンケートから人材育成や周囲との協力、学び合いに対する意識が高かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校のため一人の仕事量が多いと感じる。また、働き方には、個々の考え方もある。生活と仕事のバランスを考える声かけや勤務管理を継続していきたい。また、仕事に対する達成感や満足感を感じられるよう配慮していきたい。 ・端末の活用により、会議や打ち合わせが効率的にできるようになってきている。さらに推進していきたい。 ・教職員間での学び合いや協力体制を継続し、来年度も求められる学校に向けて、教職員をつなげていきたい。 |

| 学校関係者の評価 | 学校運営のまとめ |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の達成に向けて3つのプロジェクトが取り組んでいることがよくわかった。児童や保護者のアンケートから今年度の取り組みを分析した報告が分かりやすかった。 ・子どもたちが、落ち着いて生活している。あいさつができ、自分のことについても話せる子が多い。保護者も協力的である。 ・大人の手が必要な体験学習において、保護者のサポートが少ないこともある。 ・教職員不足を知らない人もいる。サポーター等も含め人材確保を進めていけるとよい。 ・南菅小学区は、菅地域の中で、新しい地域である。これから地域との関りを深めていくことができるとうい。 ・「GIGA端末の持ち帰りについて」子どもたちにとって端末は重いのではないかと。→端末を持ち帰る場合は、教科書やノート等を置いて帰る対応を学年に応じて行っている。 ・「GOGOチャレンジタイム」の取り組みが面白い。子どもたちの発想を大切に新体力テストで分かった課題を改善していくことができるとよい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・南菅小学校では、児童の実態を把握し指導の充実をめざし、校務分掌にプロジェクト制を導入している。組織的な学校運営、安定した教育実践をする上で効果を発揮できたと考える。教職員の負担軽減と小規模校による校務の効率化も含めて取り組みを整理し、目標を明確にしたプロジェクトを有効に機能させていきたい。 ・学校教育推進会議の方々に子どもたちの日常の様子や学校での学ぶ姿勢をたくさん褒めていただいた。また学校教育目標の実現に向けての教職員の意欲もアンケートから感じることができた。来年度も共通理解を図りながら、組織的、計画的に学校教育を進めていきたい。来年度から学校運営協議会制度を導入していく。 ・生活科、総合的な学習を中心に、地域素材や人材を生かして学習を進めた。地域の良さに気づいている児童が増えてきている。、来年度も故郷を愛し生きる力の礎とすることを目的として市制100周年と創立40周年を意識し継続した取り組みを行いたい。同時に、自己有用感を感じ、目標と見通しをもって粘り強く学ぶことができる児童の育成を目指したい。 ・学校Web等での情報発信やアンケートのとり方等、オンライン化に向けてさらに取り組んでいきたい。 |